

## 四川大地震に見る中国の電力供給問題

今月12日、中国の四川省でM7.8の地震が発生し、多くの人々が亡くなっている。新華社ならびに電力関連ウェブサイトの報道によると、三峡ダムから中国沿海地域への高圧送電線や四川省の広域送電系統には殆ど被害がないが、震源に近い地域では中低圧送配電系統が全滅して、地域全体が停電状態に陥り、救援活動も極めて困難な状況となっている。また、現地の情報によると、電力復旧にはかなり長い時間がかかる見込みである。

中国では、3ヶ月前にも大雪が原因で、今回と同様に広い範囲で停電に陥ったことがある。なぜ中国の電力系統がこのように脆弱な状態になっているのか。その主な理由として、以下に述べるような点が考えられる。

2007年末時点の中国の発電設備容量は7.1億kWに達したが、これは、日本、ドイツ、フランス、イタリアおよびイギリスの5ヶ国の合計に相当する。また、この1年間で投入された新規発電設備は1.0億kWに達し、東京電力と関西電力の発電設備の合計よりも多い。しかしながら、電力系統に対する投資は発電への投資に比べて小さく、特に中低圧送配電線に対する投資はさらに小さい。中国の専門家によると、2006年の時点で電力の最終消費者の3割強は3.5万kV（キロボルト）の電力系統と繋がっている。しかし、3.5万kVの配電線の総延長と変圧設備容量の増加率はともに発電設備の増加率を下回っている。また、3.5万kV以下の配電系統については、統計さえも見られず、配電系統の重要性に対する中国の認識が低いことを表わしている。

上述の通り、電力消費の6割以上が1万kV以下の配電網と連繫しているが、この部分の投資は基本的に消費者が負担することになっているので、投資額はさらに小さい。

その上、農村遠隔地域の送配電線に至っては、長期にわたって資金投入量が乏しく、送電線と変圧設備が不足し、設備が老朽化し、送配電ロスが大きく、通常の状態であっても電力系統が恒常的に停電するというのが実態である。

以上の点だけから見ても、四川省の被災地域における電力供給状況がいかに深刻であるか、また、復旧にどれほど長い時間がかかるか、容易に想像がつかだろう。最後に、発電を重視し送配電系統を軽視してきたこれまでの政策を見直して電力体制の抜本的改革を進めることが、中国の安定的な電力供給を実現する上で最も重要な課題になろう。

(エイジウム研究所 首席研究員 張 継偉)

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>